２０２５年１月２６日（第４主日）

第一礼拝次第

ﾒｯｾｰｼﾞ:渡真利彦文牧師
ﾗｲﾌﾞ配信：郭永東牧師

前　奏		
頌　栄	５４０	会衆
主の祈り		会衆
プレイズ	「いのちの水」	会衆
	「栄光の雲が宮に満ちて」	
聖書朗読	ヨハネ　14：６～７	司会
	（新約聖書ｐ196）	
祈　祷		司会
賛　美	５２７	
メッセージ	「 唯一の道 」	牧師
祈　祷		牧師
賛　美	新生３６３	会衆
献　金		
報　告		司会
頌　栄	新生６７２b	会衆
祝　祷		牧師

♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪

第二礼拝次第

ﾒｯｾｰｼﾞ：渡真利彦文牧師
奏楽：郭永東牧師

ﾌﾟﾚｲｽﾞ：「He is lord　わが主」
「Glorify thy name 主の名をたたえる」
「I will enter his gates 心に感謝を持ちながら」
「In his time 御手の中で」
「Amazing Grace アメイジンググレイス」

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

ファミリー礼拝

聖　書：ルカ 19：1～10
ﾒｯｾｰｼﾞ：「ザアカイ」

＜巻頭言＞

「イエスの不思議」

牧師　渡真利彦文

今から約２千年前、パレスチナの北ガリラヤのナザレから出、30 年余の短い一生を送り十字架で死なれた人物、イエスほど不思議な人物はいないでしょう。

十字架という残酷な方法で殺された人物はたくさんいたのに、彼だけが歴史に名を留めました。それも、どのような人にもまさる影響を人類に与えたのですから、不思議です。

大きな教団を組織したのでもなく、大きな大聖堂を建立したわけでもありません。およそ富や権力からはかけ離れたところで生きていました。そして一握りの平凡な弟子たちとわずか３年ほど生活を共にし、町や村をめぐりました。そして最後はエルサレムで捕らえられ、無力な囚人として死んだのです。

それなのに、彼は救い主と信じられ、数えきれないほど多くの人が彼を人生の拠り所としてきました。しかもただ偉大な預言者、優れた教師ということではなく「神」としてあがめられ、「主」として礼拝されてきたのですから、不思議です。

偉大な人間が死ねば「神」としてしまう日本人の社会と違います。神と人との間には絶対的な断絶があると確信するユダヤ人の中から、イエスを神とする人々が出てきたのですから、不思議です。

ある人は「神話」や「伝説」として片付けようとします。しかし、そのようなものが普通に発生してくるには一定の時の経過が必要ですが、イエスについて証言する４つの福音書の内容は目撃者がまだ生存していた時代に成立しています。

イエスの大胆な主張は「わたしは道であり、真理であり、命である。」（ヨハネ 14:6）という言葉に要約されます。